K5 システムによる UT1・国内 VLBI 相関処理

UT1 and domestic VLBI correlation process with K5 system

高島 和宏[1]; 石本 正芳[1]; 町田 守人[1]; 藤咲 淳一[1]; 栗原 忍[1]
Kazuhiro Takashima[1]; Masayoshi Ishimoto[1]; Morito Machida[1]; Junichi Fujisaku[1]; Shinobu Kurihara[1]

[1] 地理院
[1] GSI

http://vldb.gsi.go.jp/sokuchi/vlbi/

国土地理院の VLBI 観測では，現在まで磁気テープ記録をベースとした KSP 相関器を用いてきた。ここ数年の目覚ましい IT 向上により，磁気ディスク記録をベースとした次世代 VLBI 観測システムが開発され，実用段階に入っている。

そこで，国土地理院では K5 相関処理システムを導入し、2005 年 4 月より UT1 観測および国内 VLBI 観測を対象に本格運用を開始する。本発表では，従来の KSP 相関処理システムと K5 相関処理システムを技術面だけでなく，運用面についても比較を行い，今後の安定運用に向けた検討を行う。